



第 95 卷 第 3 号 史学・地理学・考古学

論 説

- FTA交渉と欧州統合（1956～1959）……………能 勢 和 宏 （ 1 ）
——フランスの対応を手がかりにして——
- 松平定信と「鎖国」……………岩 崎 奈 緒 子 （ 35 ）
- 明代内閣職掌形成過程の研究……………高 橋 亨 （ 68 ）
——経筵制度の成立を分析の焦点として——

史料紹介

- 六世紀のソグド系響銅……………岡 村 秀 典 （ 97 ）
——和泉市久保惣記念美術館所蔵品の調査から——
廣 川 守 介
向 井 佑 介

書 評

- 市大樹著『飛鳥藤原木簡の研究』……………本 庄 総 子 （ 126 ）

紹 介

- 元木泰雄・松菌斉編著『日記で読む日本中世史』……………松 井 直 人 （ 134 ）

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

を記した九条政基は守護の所領侵略に堪えかね、自ら家領の和泉国日根野荘に赴き、当地の人々と関係を結びながら直接支配を行った(廣田浩治)。山科言繼の『言繼卿記』には周囲の庶民生活に振り回される言繼の姿があり、これまでになく親近感のある公家像が提示される(清水克行)。室町期以降、武家も日記を記す様子が散見されるが、豊臣秀次家臣の駒井重勝の『駒井日記』は、豊臣政権内の秀次の位置付けを考える格好の素材である(播磨良紀)。これまでに見られない階層の人々が多く日記に登場する点が、当該期の特徴として提示されている。

本論の紹介は以上とするが、このほかコラムなど紙幅の都合で紹介できなかった部分にも、当然ながら研究上重要な情報が多数含まれている。

なお、各章からは各古記録の多様な記述内容に加え、各執筆者の問題意識・記述スタイルの多様さが看取される点は重要である。記述にあたっては各執筆者の裁量に任された点が多いことが記されているが、あるテキストが存在し、そこに如何様な解釈が加えられうるのか、その醍醐味を伝える

ことに關して本書は大いに成功していると思われる。

(A5判、三五二頁、ミネルヴァ書房
二〇一一年一月、税別三三〇〇円)
松井直人 京都大学大学院文学研究科修士課程

『史林』投稿規定

- ◇資格 本学会員であること。
- ◇投稿受付原稿の種類、長さ
 - 論説 1段組54字×19行の体裁で、
三二〇〇字以内
 - 研究ノート 2段組29字×20行の体裁で、
二〇〇〇字以内
 - 研究動向 2段組29字×20行の体裁で、
三二〇〇〇字以内
 - 史料紹介 2段組29字×20行の体裁で、
三二〇〇〇字以内
 - 書評・論文評 2段組、八〇〇〇字以内
 - 紹介 3段組、一二〇〇字程度
- ◇いずれにおいても、本文や注だけでなく謝辞や図表・翻刻を含めて、それぞれの紙幅に収めること。
- ◇注は各章末に入れること。
- ◇「欧文タイトル」を添付すること。
- ◇論説には「要約」(四〇〇字以内)を添付のこと。「要約」は上記の紙幅制限の対象外とする。
- ◇論説および研究ノートの投稿者は、掲載が決定した時点で、「欧文要約」(六〇〇〜八〇〇語程度)を提出すること。なお、

英文要約に限り、翻訳による作成依頼にも応じるが、経費は投稿者負担とする。

◇投稿に際しては、(1)プリントアウト

一部もしくはPDFファイル、および(2)電子データを送付する。電子データに関する詳細は下記「補足」の〈電子データ作成要領〉を参照。電子データを準備できない場合は、あらかじめ事務局まで連絡すること。

◇図版を用いる場合は、下記「補足」の〈図版作成要領〉に従って作成、添付すること。

注意・編集委員会において、印刷技術上、図版の修正や特殊活字の作成を要すると判断し、これを業者に委託した場合には、その経費の一部、数千円〜数万円を負担していただきます。あらかじめご了解下さい。

送り先・史林編集委員会

〒266-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学大学院文学研究科内 史学研究会

『史林』投稿規定「補足」

〈電子データ作成要領〉

・電子データは、フロッピーディスク、C

DR、CDRW、USBフラッシュメモリなどのメディアに保存して郵送することを原則とする。郵送に不便があるなどの事由で、メールによる投稿を希望する場合は、あらかじめ事務局に問い合わせること。

・本文の電子データは、マイクロソフト・ワード、一太郎、テキストファイルのいずれかの形式で保存し、保存形式(OSおよび使用ソフト)を明示すること。

・図版に電子データを使用する場合には、300dpi以上の解像度とする。ソフト(IllustratorやPhotoshopなど)やバージョンについて事前に照会・確認をすること。

〈図版作成要領〉

・本文原稿中に図版の割付箇所を注記すること。

・仕上寸法は、最大で170mm×110mm(キャプション込み)とすること。

・図および写真は、仕上寸法の2倍(面積4倍)程度で作成し、希望縮尺率を明記すること。

・図は、トレーシングペーパーや製図用ケ

ント紙などに製図用インキで明瞭に描くこと。その際、線の太さを一定に保つため、製図用ペンを使用することが望ましい。

・図中の文字は写真植字を用いて印刷するので、鉛筆書きするか、上にトレーシングペーパーを重ね該当箇所に文字のみを書き入れること。また、インスタントレタリングやワープロ文字を原図に貼り付ける場合は、仕上段階の鮮明度を配慮すること。

・写真は、原版が十分に鮮明でコントラストが明瞭なものを選ぶこと。なお、巻頭にアート紙で印刷することを希望する場合は、割付・仕上等は編集委員会で調整する。その経費は投稿者負担とする。

・表は、仕上を配慮して、文字数や表現法を工夫すること。原表の掲載を希望する場合は、その旨を明記し、図版に準じた体裁を整えること。

注意・図表に不備がある場合は、投稿者に修正を依頼するか、編集委員会が修正します(経費は投稿者負担となります)。

〈論文等の電子的公開について〉

・著者が論文等を任意のサーバーに、機関レポジトリ等を使って公表する場合は、以下の条件を満たすことを要する。この条件を満たす限りにおいて、本会への承諾いは不要とする。

- イ) 『史林』の版面をそのままPDFファイルなどにして公開する場合は、掲載誌刊行後、二年を経過していること。
ロ) 論文の出版を明らかにすること。
ハ) 営利目的でないこと。

問合せ先：史学研究会事務局

SHR@bunkyo-u.ac.jp

(二〇一〇年二月改定)

受 贈 誌

(二〇一一年二月三日)
二〇一二年三月二日)

- 中山大学報社会科学版 (中山大学學報編集部) 五一—一
中山大学報社会科学版 (中山大学學報編集部) 五一—二
中山大学報社会科学版 (中山大学學報編集部) 五一—三
社会経済史学 (社会経済史学会) 七七—二

立命館史學 (立命館史学会) 三三二

立命館文學 (立命館大学人文学会) 六三三

日本民俗学 (日本民俗学会) 二六八

史迹と美術 (史迹美術同致会) 八一九

CHRONOS クロノス (京都橘女子大学女性歴史文化研究所) 三三三

経済論究 (九州大学大学院経済学会) 一四

一

考古学報 (中国社会科学考古学研究所) 二〇一—四

岐阜経済大学論集 (岐阜経済大学学会) 四

五—一—二

国立歴史民俗博物館研究報告 (国立歴史民俗博物館) 一六八

人文地理 (人文地理学会) 六三—五

史學雜誌 (史學會 (東京大学文学部内)) 一一〇—一

Historia Mexicana (El Colegio De Mexico) 二四三

人文学 (同志社大学人文学会) 188

史學 (三田史学会) 八〇—四

韓國民族文化 (釜山大學校韓國民族文化研究所) 四一

龍谷史壇 (龍谷大学史学会) 一三四

一橋研究 (一橋大学大学院一橋研究編集委

員会) 三六一—三合併号

海事史研究 (日本海事史学会) 六八

日本史研究 (日本史研究会) 五九—二

神道史研究 (神道史学会) 五九—二

大美和 (大神神社社務所) 一三三

ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一一九—二

ANTHROPOLOGICAL SCIENCE (The Official Journal of THE ANTHROPOLOGICAL SOCIETY OF NIPPON) 一一九—四

九州国際大学教養研究 (九州国際大学教養学会) 一八一—一

九州国際大学教養研究 (九州国際大学教養学会) 一八一—二

東方學會報 (東方学会) 101

信濃 (信濃史学会) 六三—一一

史迹と美術 (史迹美術同致会) 八二〇

古代文化 (古代学協會) 六三—三

韓國史研究彙報 (韓國国史編纂委員會) 一五四—一五五

日本学刊 JAPANESE STUDIES (中国社

会科学院日本研究所中華日本学会) 二〇

一一六

政治経済史学（日本政治経済史学研究所）

五三一—五四二

日本歴史（日本歴史学会）七六四

立命館法學（立命館大学法学会）三三八

経済科学（名古屋大学大学院経済学研究

科）五九—三

国家學會雜誌（国家学会事務所）一二四—

一一・一二

史學雜誌（史學會（東京大学文学部内）

地域アカデミー公開講座報告書（広島大学

大学院文学研究科歴史文化化学講座）二〇

一〇

信濃（信濃史学会）六四—一

美術研究（東京文化財研究所）四〇五

アジア研究所所報（亜細亜大学アジア研究

所）一四五

日本史研究（日本史研究会）五九三

日本歴史（日本歴史学会）七六五

専修史学（専修大学歴史学会）五一

中央研究院歴史語言研究所集刊（中央研究

院歴史語言研究所）八二—四

史迹と美術（史迹美術同致会）八二—一

法學志林（法政大学法學志林協会）一〇九

—一

法學志林（法政大学法學志林協会）一〇九

—二

東方學（東方學會）一二三

神女大史学（神戸女子大学史学会）二八

史學雜誌（史學會（東京大学文学部内）

—二—一—

九州国際大学経営経済論集（九州国際大学

経済学会）一八一—

經濟論集（ソウル大学校經濟研究所）五〇

—三

社会經濟史学（社会經濟史学会）七七一—三

立命館産業社会論集（立命館産業社会学

会）四七一—三

國史學（国史学会）二〇五

經濟研究（一橋大学經濟研究所）六三一—一

鹿児島大学法文学部紀要 人文科学論集

（鹿児島大学法文学部）七三

鹿児島大学法文学部紀要 人文科学論集

（鹿児島大学法文学部）七四

東洋史研究（東洋史研究会）七〇—三

中山大学学报社会科学版（中山大学学报編

集部）五一—四

中山大学学报社会科学版（中山大学学报編

中山大学学报社会科学版（中山大学学报編

集部）五一—六

信濃（信濃史学会）六四—二

九州国際大学法學論集（九州国際大学法学

会）一八一—二合併号

日本史研究（日本史研究会）五九四

国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民

俗博物館）一六七

国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民

俗博物館）一六九

国立歴史民俗博物館研究報告（国立歴史民

俗博物館）一七一

一六

奈良史学（奈良大学史学会）二九

人文地理（人文地理学会）六三一—六

國立臺灣大學考古人類學刊（國立臺灣大學

大学院人類學系）七三

史泉（関西大学史学・地理学会）一一五

京都橘大学研究紀要（京都橘大学）三八

日本歴史（日本歴史学会）七六六

長野県立歴史館たより（長野県立歴史館）

七〇

札幌大学総合論叢（札幌大学）三三—

寧楽史苑（奈良女子大学史学会）五七

- 経済論叢（京都大学経済学会）一八三―四
 経済論叢（京都大学経済学会）一八四―一
 経済論叢（京都大学経済学会）一八四―二
 経済論叢（京都大学経済学会）一八四―三
 経済論叢（京都大学経済学会）一八四―四
 調査と研究（京都大学経済学会）三七
 東洋學文献類目（京都大学人文科学研究所
 附属漢学情報研究センター）二〇〇九年
 度
 國家學會雜誌（國家学会事務所）一二五―
 一・二一
 史迹と美術（史迹美術同攻会）八二二
 鹿兒島經濟論集（鹿兒島國際大學經濟学部
 学会）五二―一〜四合併号
 國立歷史民俗博物館年報（國立歷史民俗博
 物館）七
 史學雜誌（史學會（東京大學文学部内）
 一二一―一二
 斯道文庫論集（斯道文庫）四六
 成大歷史學報（國立成功大學歷史學系）四
 一
 一橋研究（一橋大學大学院一橋研究編集委
 員会）三六―四
 日本學研究（金沢工業大學日本學研究所）
 一四

お詫びと訂正

訂正が二点ございます。

九五巻第一号掲載の土口史記氏の論説の、五頁本文一行目にて、「中国古代都市に関して、瀬世獻譜誦多多くの人がまず想起するのは……」とありますのは、「中国古代都市に関して、多くの人がまず想起するのは……」となります。

また、前号の九五巻第二号の表紙にて、西山喬貴氏の論説の副題が「19世紀中期イギリス対中通商システムの構築」となっておりますが、正しくは、「19世紀中葉イギリス対中通商システムの構築」です。

お二方の著者ならびに読者の方々にはたいへんご迷惑をおかけいたしました。謹んでお詫び申し上げますとともに、右記のように訂正いたします。

編集後記

本誌の第三・四巻に、東アジアで確認された古代銅器の成分分析に関する論考があります。日本の文明化を考察する上で、極

めて重要な実証的作業でした。九〇余年の後に、同様に中国の古銅器の成分分析を基調とした論考を掲載することになりました。分析結果の学問的意義は、九〇年前と同様に非常に大きなものですが、作業を担ったのは、今度は文系学者です。学際的研究の進展を、研究行為の実践という側面でも意識させられます。（富井眞）

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenyukai.jp/index.html>

本誌には独立行政法人日本学術振興会平成二四年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が交付されております。

二〇二二年五月二五日印刷
 二〇二二年五月三一日発行

定価一、二〇〇円
 史林 第九五巻第三号（通巻第四九三号）

電話（〇七五）七五三・二七八七
 FAX（〇七五）七五三・二七八七

発行人 史学研究会

振替京都〇二〇七〇二二五二五番
 理事長 夫馬進

印刷所 中村印刷株式会社
 京都市南区上鳥羽露田二九

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCV No. 3

May 2012

CONTENTS

Articles :

- NOSE Kazuhiro, The Negotiations of the Free Trade Area and European Integration, with Particular Reference to the French Response..... (1)
- IWASAKI Naoko, The Reaction of the Edo Shogunate to the Russian Initiatives during the Late Edo Period: Matsudaira Sadanobu and the Policy of "Sakoku" (35)
- TAKAHASHI Tōru, A Study of the Process of the Formation of the Ming Grand Secretariat, Focusing on an Analysis of Establishment of the System of the Classics Colloquium (68)

Material :

- OKAMURA Hidenori, HIROKAWA Mamoru and MUKAI Yusuke, The Sogdian High-Tin Bronzes in 6th Century China; Fluorescence X-ray Analysis of the Collections of Kuboso Memorial Museum of Arts, Izumi..... (97)

Book review :

- ICHI Hiroki, *Studies on Wooden Tablets Unearthed from Asuka and Fujiwara Area* (HONJO Fusako) (126)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 1,200円(税込)

ISSN 0386-9369